

日高の概況

地理



日高管内は、北海道の中央南西部に位置し、南北に連なる日高山脈とその前山で占められ、平野部が少なく太平洋に面して167kmの海岸線をもっています。学術的にも貴重な動植物の分布が見られる日高山脈は秀麗な景観を示し、国定公園に指定されています。また、日高山脈支稜線西南端に位置するアポイ岳は、平成20年12月に日本ジオパークとして認定され（平成25年1月に再認定）、平成26年8月には日本ジオパーク委員会から世界ジオパークネットワークの加盟申請地域として推薦されています。

面積は4,811.96km²で北海道総面積の5.8%、和歌山県・福岡県とほぼ同じです。気候は、沿岸地方は夏は涼しく冬は温暖な海洋性気候であり、積雪も少ないが、内陸地方は気温の変化が大きく、積雪量も多くなっています。

管内人口は64,954人（令和2年（2020年）4月30日現在）で昭和35年をピークに減少しています。

沿革



開拓の歴史は古く、16世紀後半から和人の来住が多くなりました。

本格的に開拓がはじまったのは、寛政年間に入って幕府が蝦夷地を直轄地としてからで、山道の開削・農作物の試作・馬牧の増設・昆布場の造成が進みました。明治5年には浦河支庁が設置され、昭和7年に日高支庁、平成22年に日高振興局と改称されました。この間、他県からの移住者による農業の開拓、また、水産業の発達・軽種馬産業の拡大・日高本線の開通等により開発が進められたものの、その後、交通網の整備などの遅れから地域全体の発展が遅れていました。

現在は、恵まれた自然環境を生かし、地域が一体となった軽種馬生産の取組等から、全国一を誇る馬産地となっており、今後は、高規格幹線道路「日高自動車道」の建設等により、さらなる発展が期待されています。

産業



産業は農林水産業、食料品・木材・木製品製造業等が主体であり、特に軽種馬生産は、全国の生産頭数の約80%を占めています。水産業の面ではこんぶ、さけ定置、たこ等の沿岸漁業が中心となっています。

面積・人口

（令和2年（2020年）4月30日現在）

町名	面積	人口	町名	面積	人口
日高町	992.67km ²	11,744人	浦河町	694.24km ²	12,032人
平取町	743.16km ²	4,894人	様似町	364.33km ²	4,196人
新冠町	585.88km ²	5,448人	えりも町	283.93km ²	4,569人
新ひだか町	1,147.75km ²	22,071人	合計	4,811.96km ²	64,954人